

2次大戦、韓人孤魂

なせ行けないのか、

8.15特集 オ2大戦犠牲英霊どこに……

世界オ2次大戦の終息を告げた日本天皇の降伏放送があった

8/15、45年の今日、その日以降、42年の年月が流れた。世界のどこ

国よりも、オ2次大戦の犠牲となった韓国は、8/15が「解放」の日

であり、感謝の日であった。1939年の戦争がホッとするかなり

以前から、日本の植民地政策にしていたげられてきた韓民族は、36年の

苦痛が、一日で消え去ってしまった栄光の日であった。しかし、42年の年月が

戦争に強制的に引っぱられて犠牲となった英霊たちは、未だに、暖い

故郷の地へ帰ってこられず、見知らぬ、異国の地に眠っている。これから英霊達は

永遠に帰って来られず、日本の地に転がらなければならないのか。

日本の現地取材を通じて、その実体を調べてみる。

外務省

韓国について

未だに日本全域に韓国人の亡霊がうずまわっている。太平洋戦争によって犠牲になった韓半島出身戦没者の追悼式を主幹してきた日本人の調査によれば、戦争がおこった39年から7年間、軍人・軍属挺身隊炭鉱等の労働者として、概ね600余万が強制動員され、これは主に工場建設関係73ヶ所及び53ヶ所の炭鉱で仕事をしたのである。氏が調査したところによれば、日本に居住していた韓国人と韓国から直接強制徴用され、軍人・軍属挺身隊・軍夫として犠牲になったものの大部分は、山灰鉦・タム・軍需工場・水力発電所・トンネル工事等の労働者として、仕事をしていた犠牲となり、その数は、30万名にのぼるというのである。

またこれらの犠牲者たちは、今、日本全国の山灰鉦、土木工事現場、水力発電所建設地等に埋っており、縁故が解らない多くの遺骨が工事現場近くの寺院に放置されているのを把握したと、

氏は調査書で明らかにしている。

東京目黒祐天寺法堂では無縁故遺骨が1200。L

今も多くの数の遺骨が、目黒法堂にさらば、ている中で、日本の東京都

目黒祐天寺法堂には1140柱の韓国人遺骨が奉安されている。

朝鮮戦争が終った3年後の58年福岡地方で海軍兵

復員部によって韓国人遺骨²³²⁸柱の山が日本厚生省に移管され、

これら遺骨は厚生省地下室に保管された。その後60年8月より次

韓日定期閣僚会議が、終ったのち、両国の合意によって、遺骨の

遺族さがしに入り、これにより、1188柱が縁故者を見付け、

韓国へ帰って来た。しかし縁故者をさがし出せなかった

1140柱の遺骨は厚生省地下室に放置されていたが、祐天寺

のマッセンで、61年厚生省から引きつがれ、現在に

至っている。行き場のなかったこれら遺骨は、そのまま、祐天寺の

好意で、仏様のふところ、眠っており、毎朝供養を受けるようになった。
 また、厚生省と祐天寺の共同で施される8月の追悼祭を受けている。
 しかし、韓日両国政府は、縁政者の無い遺骨が、この寺に移されてから、
 後は、まったく関心を示さなかった。この様な実情に心をいためた
 人は、それでも、韓国人だけであつた。

以下、4 ページは非公開。

9 4

[illegible]